

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000358		
法人名	医療法人有心会		
事業所名	グループホームあいちの森 (このは)		
所在地	豊橋市松村町48番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成28年4月25日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26		
訪問調査日	平成28年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>出会った時から旅立ちの時まで日常を共に考え支援していきます。残存能力を生活の中に活かし、馴染みの顔や馴染みの環境の中で笑顔が絶えない様生活していく事を目指しています。又、常にスタッフが挑戦できる意欲を引き出す環境作りを目指しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員全員が理念を追求する姿勢を持ち、利用者一人ひとりの尊厳を大切に明るく家庭的なホーム作りを行っている。日常生活の中から個々にできる事へ寄り添い支援し、残存機能の維持や穏やかな生活を実現している。同法人敷地内にクリニックや通所・宿泊の複合型サービス事業所を併設し、医療面での連携体制や通所利用者との関わりを深め、サービスの質を高めている。地域との密接な交流を図り、地域ボランティアの定期的な訪問や、保育園の慰問、地域祭りへの多数参加等を通じて、地域住民と触れ合っている。また、推進会議では地域向け「認知症サポート講座」を開催し、ホームとしての役割を地域に還元している。開所1年であるが、今後も地域と共に更なる発展が期待される。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に関しては、ホーム独自のものであり、皆で考えて作ったものです。ユニットごと月一の会議等で確認し、日常生活の中で実践につなげている。	理念にある「残存機能を活かし維持する」環境作りを大切に、常に利用者に寄り添いできる事への支援に努めている。ユニット会議では、実践できているか確認し合い認識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(盆踊り、お祭り、防災訓練他)に参加させて頂いたりして交流を深めている。開所当初より暖かく見守ってくださっている地域の保育園などとも交流を深めている。	近隣住民とは散歩等で顔馴染みとなり、挨拶をしたり利用者を気に掛け見守ってくれる等の関係が築かれている。地域の防災訓練やお祭り等多数の地域行事へ積極的に参加し、地域に根差し活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向けの認知症の勉強会なども含め、運営推進会議に多くの代表者の方々に出席頂き、報告や話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業所の行事報告や運営状況を報告している。入居者様の日常の暮らしぶりやエピソードなどを話し、認知症の人を理解して頂き、徘徊、災害時の協力支援をお願いしている。	運営推進会議の際には、全家族に参加を呼び掛け多数の参加がある。参加者相互に意見交換する場として活かされ、身近に起こりうる徘徊等について話し合ったりして、地域や家族へ認知症への理解を深める事ができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の研修や会議等には積極的に参加し、連絡は出来る限り密に取るようになっている。	市役所担当者には、運営推進会議議事録を持参し、何かあれば電話で相談する等ホームの実情を伝え協働関係を深めている。市からの依頼で介護事業運営委員会に加入し、福祉関連の事業所との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる行為については職員全体が理解しており、出来ている。ただし玄関の施錠に関しては、理解はしているが、病院内という事もあり、施錠させてもらっている。	ユニット会議や社内外の研修を取り入れ、身体拘束廃止を徹底的に指導している。転倒等の危険のある利用者には、日頃から見守りを強化する等、制限や拘束のない生活ができる様に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは、虐待はもとより、威圧感や強制的な態度がない様にしあい、スタッフのレベル向上に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在一名成年後見人制度を利用されており、その際に学習、理解している。又、その方に対しては協力支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、契約書、重要事項説明書を説明すると共に、同意書に署名してもらっている。改正する時は、説明し理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはホーム便りを月に一度発行し、入居者様、ご家族共に話しやすい環境を作っている。又、運営推進会議に出席を依頼している。その折に事業所への要望、意見など聞くことが出来、運営に反映している。	家族には往診料の支払いで月1回必ず来てもらい、面会時には話をする時間を作り、会話の中から意見や要望を引き出すよう努めている。些細な気づきや要望は申し送りや共有ノート等で、職員全体で周知できている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体会という会議を開き、その中で職員の提案や意見を聞くようにしている。その場で話し合える事はすぐ現場に反映させている。	管理者は職員との個人面談の機会を作っている他、ユニットリーダーを通じて意見や要望が伝え易い環境を整えている。意見ノートには職員の意見交換が盛んに行われ、支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や勤務態度、実績に対し、報酬などにも結びつけ、やりがい、向上心が持てる様に務めている。働きやすい環境を考え、スタッフの状況に合わせる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で連携し、研修や勉強会を実地している。外部研修も積極的に参加し、質の向上に努めている。資格取得の研修は積極的に参加する様進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけ地域の研修会に参加できるよう、常にサービス向上に努めている。今回はスタッフの参加は出来ないが、管理者、計画作成などは、他事業所と交流を持って、情報交換はしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談し、本人の話を聞いて、本人の思いに寄り添える様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談し、困っている事等を聞き、要望等を確認して安心できる、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人の、必要としているサービスで出来るだけ、ご希望に沿うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフとご本人が出来る限り一緒に行い、お互いに一緒に生活していると感じて頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の良い関係が保てるように、ご家族様の訪問時には、本人の様子を伝える様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や、電話での対応がして頂けるようにしている。常にスタッフは笑顔での対応を心がけている。	友人や仕事の同僚が訪ねて来たり、電話の取次ぎや年賀状を書く等、馴染みの関係が継続出来るよう努めている。畑の土いじりや洗濯が好きな利用者の生活習慣が、継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に、スタッフは仲介役を行い、入居者様同士が、仲良く過ごしていける環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との関係を、今まで通り継続していき、相談事があれば、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の入居前の暮らしの様子を聞き、本人本位の希望、意向把握に努めている。	日々の関わりの中でコミュニケーションをとり、利用者の思いや希望を聞いている。また、気づいたことを記録し、職員間で情報を共有している。把握が困難な時は、顔色を伺い行動を見守りながら把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に確認した生活歴や本人との話し合いの中で少しずつ、本人の様子を把握できる様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を観察し、動作、表情より、心身の状態の把握できる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、各ユニット会議、モニタリングを行い、担当スタッフと現状確認を行っている。ご家族が面会来訪時に意見を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ユニット会議でケアカンファレンスを行い、小さな見直しは常に行っている。また、ケアマネージャーも利用者の様子を記録し、モニタリングを行っている。本人・家族の意向と職員の意見を取り入れた介護計画を作成し、6ヶ月で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記入、申し送り時に、スタッフ間での情報交換を行い、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化時、必要に応じた日用品の購入、福祉用具のレンタル、理美容、通院(法人内)も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園行事への参加、町内会の盆踊り、お祭り等、地域行事に参加し、楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、往診を行われ健康管理をしている、医療法人内での通院必要時は、ご家族同意のもと、スタッフの付き添いにて通院を行っている。	入居時に利用者は協力医である併設1階のクリニックにかわり、月1回訪問診療を受けている。職員は事前に医師に伝えたい事などを記入し、受診時に確認している。専門医の受診は家族が対応し、その際情報を伝え結果報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、ご本人様の状態を把握しており、変化や異常がある場合は、看護師に報告し、指示を受け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居の際、入院希望病院を確認し、入院時には訪問を行い、情報交換を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、入居時の事前の希望書を頂いている。重度化した場合は、ご家族と十分話し合いをして、事業所の出来る範囲内で支援をしている。	「重度化した場合の医療対応確認書」を入居時に家族に見てもらっている。理念に「終末期ケアの受け入れ」を掲げ、重度化した時は家族・医師・職員で話し合い、利用者の尊厳を第一に手厚い看取りを行っている。死は終わりではなく次のステップの始まりと捉え、職員は明るく笑顔で送り出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に届けの元、年2回実践的な防災訓練を行っている。地域の災害の講習会の参加もしている。	7月に昼間の地震を想定した避難訓練を、利用者と一緒に階段を使用して実施した。車椅子の人は職員4人で下ろし、駐車場まで避難した。地域の防災訓練では講演会・起震車体験・ガラスフィルム飛散体験があり、職員が参加した。	いつ起こるかわからない災害に備え、3月には夜間想定での避難訓練を予定されているので、是非実施されることを望んでいる。また、消防署の立ち合いでの避難訓練をされる取り組みにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人、その方に合った声掛けや、対応をし、スタッフ同士情報を共有しながら、支援させて頂いている。	職員は上から目線や子ども扱いをしないよう言葉づかいに気をつけ、利用者のプライドを損ねないよう支援している。記録は見守りながらフロアで記入している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の体調を考慮しながら、出来るだけ自己決定して頂けるような声掛け、環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の生活リズムを把握し、ご本人の希望に添えるよう、ご自分のペースで生活が出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその方に合った服装をして頂けるよう、声掛け、見守りを行っており、ご希望があれば、ご家族様の同意を得て、一緒に買い物を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが必ず見守りをしながら、野菜の下処理や盛り付け、誕生日ケーキの飾りつけや、片付け等の手伝いをして頂いている。	誕生日には本人の希望を聞きながら、職員が献立をたてている。利用者は毎日職員と一緒に食材の買物や調理・片付けを行っている。食の細かい人には食べやすく工夫し、個々の体調に合わせて対応している。毎月外食の日があり利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスが偏らない様に、スタッフで話し合っ、献立を考え、食事・水分量の記録を付け、注意している。又、その方に合った食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方はスタッフ見守りにて行って頂き、困難な方はスタッフの介助にて行っている。義歯のある方は、毎日夜間洗浄・消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入することで、排泄パターンを把握し、その方に合った声掛け、誘導を行っている。	時間を見計らいその人に合わせた声かけや誘導することで、トイレでの排泄に繋げ、パットやオムツの使用を減らすよう支援している。介助が必要な人はもちろん、自立されている人でも必ず職員は見守り、安全に配慮し確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入する事で、排泄のリズム・形状を把握している。又、体操や散歩にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人ずつ、ご本人様のペースに合わせて入浴して頂き、必ずが見守りを行っている。いつでも良いとおっしゃられる利用者様は、こちらで決めさせて頂く事もある。	週3回好きな時間に入浴している。その日入る利用者は決まっているが、希望があれば毎日でも入浴できる。湯の張り替えは、なるべく一人ずつ行い、マンツーマンでゆっくり入浴している。時に頂いた柚子や健康に良い葉を入れ入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の希望や、体調を考慮しながら、基本的にはお好きな時に休んで頂いている。夜間ゆっくり良眠して頂く為、日中の活動が増えるよう声掛けなども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬一覧表を作成し、いつでもスタッフが確認できるようになっている。服薬ミスが起きない様、必ずスタッフ同士で確認を行い、服薬チェック表・チェックボードを作成し、活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きな事、得意な事に自ら進んで取り組んで頂けるよう、声掛けを行い、嗜好品などもスタッフ把握しながら、購入して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調などに合わせ、外食や日々の食材の買い物など、出来るだけたくさん外出して頂けるよう努めている。ご家族様にもご協力頂き、外食や外泊等に出掛ける方もいらっしゃると思います。	食材の買物に行かない利用者は散歩や屋上に行き、外気に触れるよう支援している。毎月外出の日があり、菖蒲園やラグーナ蒲郡・紅葉見学など全員で外出している。希望があればできる範囲で個別支援を行うが、今のところ馴染みの店や行きたい場所には家族と出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、個々の財布へ入れ、スタッフが預らせて頂いておりますが、ご家族様と相談の上、外出される際、お好きな物を購入して頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に連絡希望の際、対応している。携帯電話を所持されている方も見えます。又、月一回、個人新聞を作成し、ご家族様にお渡ししており、その中にご本人からご家族にあてたメッセージを自身でかける方は直筆、書けない方はスタッフ代筆にて記入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な温度、照明にし、清潔を保持しており、フロア内は季節に合わせて飾りつけをしている。又、外出やレク時の写真や塗り絵などの作品も展示している。	事務所を挟んで各ユニットがあり、居間は広々とした空間になっている。利用者のプライバシーを侵害しないよう気をつけながら、居間では一日1回レクリエーションなどで発散する場を設け、居心地よく過ごせるよう努めている。屋上では花火鑑賞や家庭菜園で季節の野菜・花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りの場所を把握し、それぞれの方が思い思いにリラックスして過ごして頂ける環境作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた食器や家具をお持ちいただき、使い慣れたもの、好みのものを使うことによって、居心地よく過ごして頂けるようにしている。又定期的にスタッフが掃除や整理整頓・衣替え等行っている。	ベッド・エアコン・洗面台が常設され、大きなクローゼットがあるので整理整頓がしやすい。使い慣れたこたつや家族の写真・レクリエーションでの作品などを飾り、その人らしい居室になっている。趣味の読書や塗り絵など一人の時間も大切に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ同士で情報を共有し、個々の「できること」を把握することで、それぞれに合った声掛け・見守りを行い、出来るだけご自分で行って頂いている。又、トイレ等の位置がわかるように名称や番号を貼っている。		